

編集後記

●メッセージは、地方共同法人日本下水道事業団の黒田憲司理事長にご執筆いただきました。「川漁師の未来」と題し、ご自身の故郷近くの河川で盛んなアユ漁について紹介されています。アユ漁は、貴重な「漁撈文化」である一方で、ダムの建設等による水量減少などを理由に、特に天然アユ漁におけるアユの質、生息域について心配されています。このような中、黒田氏は理事長就任をきっかけに、山形県鶴岡市の「つるおかBISTRO鮎」を知り、この取り組みが「川漁師の未来や新たな漁撈文化を拓いてくれるかもしれない」と期待されています。また、下水道のポテンシャルを活かすための新たな技術の開発・活用においては、暮らしや文化に対してどう関わっていけるのかを丁寧に説明していくことが大切なのではないかとのお話をいただきました。

●エンジニアリングレポートでは、「水害時の沈殿機能確保に資する耐水型汚泥ポンプ設備に関する共同研究」について報告しています。本研究では、水没しても運転可能な耐水型ポンプを中心とした汚泥ポンプ設備の耐水化を沈殿機能確保のための一手法と位置づけ、その適用範囲や要求性能のほか、各段階における手順等を検討し、耐水型汚泥ポンプ設備導入に必要な措置等を取りまとめました。

●研究室探訪では、医薬品による生態系影響の解析や農業分野等と連携した研究等に取り組まれている、高知大学 農林海洋科学部の井原賢准教授の研

究室にお伺いしました。現在取り組んでいる研究内容や官民との連携についての考えを聞かせていただきました。また、井原准教授はこれまで環境工学に加え生物学も学んでいらっしゃることから、複数分野の知識や経験を活かして、分野と分野の間をつなぐような研究を実施したいと意気込みをお話いただきました。

●トピックスでは、佐賀市上下水道局にお伺いしました。佐賀市では令和5年4月より、味の素(株)九州事業所からバイオマスを受け入れ、これを消化ガス発電事業等に活用しています。事業実施に当たって課題となった排水基準の緩和や技術的課題に関して、解決するためにどのような検討を行ったのか紹介しています。また、佐賀市と味の素(株)九州事業所の各担当者に、それぞれの事業実施のメリットも教えていただきました。

●ユーザーレポート改め新コーナー「技術活用の現場から」をお送りします。今回は、金沢市企業局の臨海水質管理センター、城北水質管理センターにお伺いしました。両施設では消化ガス発電事業を実施しています。前者ではエネルギー自給率50%以上(相当)、後者では10%程度(消化ガス全量を発電に使用した場合30%程度)の発電を行っています。各施設での導入背景から事業実施状況、その効果等を紹介しています。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代に向けた新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、こどもの写真を表紙のシリーズとして掲載しています。

今号の表紙は、本機構研究第一部の河野佑太研究員のお子さんで、佐咲(さら)ちゃん10カ月です。

写真は、東京都下水道局落合水再生センターせせらぎの里公苑での一枚です。初めて行った公園で佐咲ちゃんは楽しそうに周りをキョロキョロ。最近様々なことに興味を持つようになったそうで、上野動物園に行ってから動物に興味津々です。中でもパンダがいちばん好きで、お気に入りのぬいぐるみの「パンちゃん」を離しません。これからもたくさんの方に興味関心をもってすくすく育てほしいですね。

下水道機構情報

Vol. 18 No. 38
2024年1月

令和6年1月10日発行

発行者・編集者 塩路 勝久

機関誌編集委員：清水 久子／阿部 千雅／端谷 研治
加藤 伸孝／森岡 真弓／武井 康太
河野 佑太／廣兼 武／郷野 梨夏

発行所 公益財団法人 **日本下水道新技術機構**

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512